

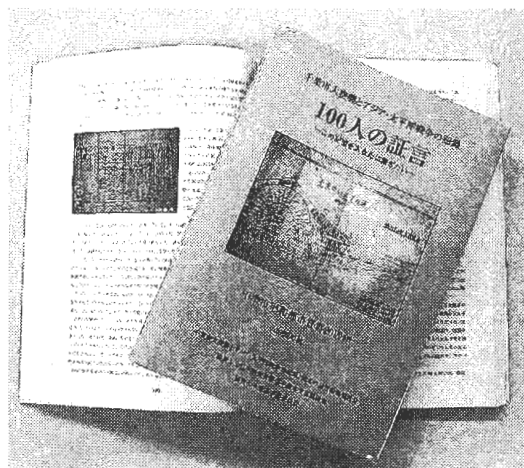
# 証言 証言 証言 千葉空襲 120人... 重い声

## 市民有志らが聞き取り刊行

### 「平和都市宣言」20周年節目に編集

千葉空襲の証言集「千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録 100人の証言」が市民有志らによって製作された。同空襲の体験は、既に数多くの出版物で伝えられているが、「戦争のとらえ方は一人ひとり違う。今になって語れるようになった人たちもいる」として新たな証言を一冊にまとめた。

(小沢邦男)



1年がかりで120人余に聞いて完成した証言集

## 表題の100人超え 戦争体験幅広く

戦後64年。戦争体験者の高齢化が進む中、千葉市が平和都市宣言をして20周年となる今年を選んで、証言集の編集を進めてきた。

千葉空襲は、1945年6月10日の爆弾空襲と同年7月7日の焼夷弾空襲をさし、合わせて千人前後の市民が犠牲

となつたとされる。証言集をまとめた編集委員の一人、白井進さん(80)は県庁近くに実家があった。当時、大阪の陸軍幼年学校におり、終戦の2日後に汽車を乗り継いで帰郷した。降り立った千葉駅から県庁を見渡すと、一面焼け野原で家が一軒もなかったこと超す人から体験談や遺稿が得られ、ほぼ全員分が実名で掲載された。旧満州(中国東北部)やサハリンからの引き揚げ、従軍体験、治安維持法違反容疑で逮捕された人の体験談も収録した。「証言者のほとんどが家族を失い、涙を流しながら編集を続けた」と白井さんがいう、悲しい話が並ぶ。

編集委員は67歳から80歳までの6人。証言者は当時10代が多くを占めた。白井さんらは「2、3年取りかかるのが遅かったら、これほど集められなかっただろう。今は米国と戦争したことを知らない人もいる。若い人に読んでもらいたい」と話す。

3千部製作。A4判342頁。千円。学校や公共施設への寄贈も予定している。問い合わせは編集委員の一人、伊藤章夫さん(080・5305・3739)へ。

## 戦争の悲惨さ後世に

### 千葉市大空襲「100人の証言」発刊

千人近い市民が犠牲となつた大空襲の悲惨さを後世に伝えようと、市民らの証言を集めた「千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録」100人の証言」が発刊された。

生活や満州(中国東北部)、上海、朝鮮、サハリンからの引き揚げ、軍隊の体験談、戦争に反対し治安維持法で逮捕された人の証言も収録。4判、342頁。鉄道機関区、罹災(りさい)報告書や、市街地の焼焼を防ぐため建築物を強制破壊した際の

## 証言

千葉市中央区千葉寺町の白井進さん(80)ら有志6人が戦争体験集「千葉市大空襲とアジア・太平洋戦争の記録」100人の証言」を編集し、出版した。終戦から64年が経過し、戦争を体験した世代の高齢化が進む。白井さんは「戦争を風化させたくない。今、出版しなければ、語り手がなくなってしまう」と危機感を抱き、仲間と一緒に約1年間かけて体験集を製作した。

千葉市大空襲は1945年6月10日と7月7日にあり、1000人近い市民が犠牲となつたとされる。

平和都市宣言20周年を

アジア・太平洋戦争の記録 100人の証言



20周年

100人の証言

め建築物を強制破壊した際の